

京都府の形象埴輪

小山 雅 人

1 はじめに

埴輪は、遺跡からの出土遺物としては大形で、丘陵上であれ、平地であれ、現状においても地上からある程度の高まりを遺す古墳に、しかも多量に樹立されるのを原則としており、比較的urface採集し易い遺物である。そのため、発掘調査が行われていない古墳に関しても、その墳丘測量図と共に、出土した埴輪が、その古墳の時期や性格などを論じることが可能としてきた。一方、ここ10数年に急増した古墳や遺跡の発掘調査によって、調査で初めて埴輪の存在が知られた古墳や集落ないし祭祀遺跡も増えて来ており、特に、以前は奈良時代以後の都城などの建設によって削平されたと見られていた周濠ないし周溝の遺存によってのみ古墳跡と判るいわゆる削平古墳の例も、都城跡に限らず、畿内以外の地からも相次いで報告されている。それに伴って従来考えにくかったような直径／一辺10数m程度以下の小規模古墳においても埴輪を樹立している報告例も最近は少なくない。本稿は、今後の調査・研究の基礎作業として、京都府における埴輪(特に形象埴輪)を出土している古墳遺跡の集成を試みたものである。

2 京都府における埴輪出土古墳

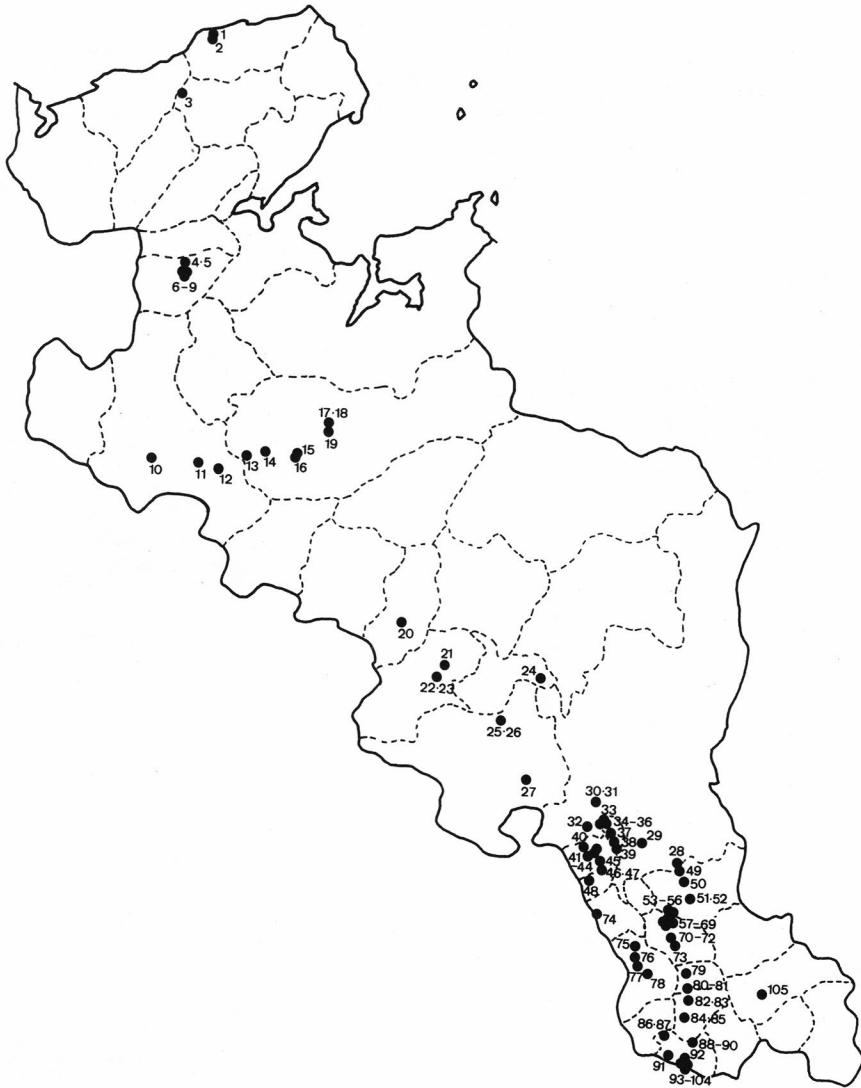
京都府は、現在10市32町1村に行政区分されているが、律令制時代の丹後国の5郡・丹波国の7郡のうちの5郡(残り2郡は、兵庫県)・山城国の8郡の計18郡から成っている。言うまでもないが、南部の山城国は、奈良時代以降、隣接する大和国や河内国などと共に畿内を構成する一国であり、北部の丹後国は、京都府のみならず、日本海側で最大規模の前方後円墳、網野銚子山古墳(長199m)や神明山古墳(長190m)などを擁することで知られ、また丹波国は、やや国としてのまとまりに欠けるが、景初四年銘盤龍鏡の出土や、大型方墳の分布で特徴づけられる特異な地域である。西暦紀元300年を前後する頃から7世紀の中頃あたりまでの350年間に、京都府内に築かれた古墳は、およそ9,000基に上る。これを旧国別に分けると、丹後5,000：丹波2,500：山城1,500という比率になり、古墳数で見ると、北高南低の様相を呈している。山城国全体の1,505基という数は、丹後の中郡(1,540基)や与謝郡(1,596基)の1郡内の古墳数にも及ばないのである。

ところが、埴輪出土地(古墳の他、埴輪窯・集落・散布地をも含む)の数を見ると先の様相が逆転していることが判る。総数256か所を国別に分けると、丹後33：丹波48：山城175となるのである。京都府内で最も古墳が多く、また埴輪の出土も丹後・丹波で最多の丹後国与謝郡においても、17か所という数字は同郡の古墳数1,596基の僅か1.1%に過ぎない。丹後国の埴輪出土地点は、34か所で、古墳数の0.7%であり、熊野郡や加佐郡では現在のところ埴輪の出土すら報告されていない状況である。丹波国では48か所とやや多いが、古墳数の1.9%に過ぎない。丹後や丹波では、100基の古墳の中で埴輪をもつのは僅かに1基か2基に過ぎないのである。これに対して、山城国では175か所の埴輪出土地が知られ、およそ10基に1基の割合で古墳に埴輪を樹立していたことになる。最も古墳数の少ない紀伊郡(京都市伏見区を中心とする地域)においてすら、円筒棺墓や散布地も含めて最低4か所で埴輪の出土が確認されており、これは、同郡の総古墳数の6.8%に相当する。

古墳数に対して埴輪の出土率が最も高いのは、久津川古墳群を擁する南山城の久世郡(およそ宇治市南部と城陽市域)で、30%の古墳が埴輪を立てている。次いで、北山城の乙訓郡の18.5%と南山城の相楽郡の17.8%が、ほぼ互角で続く。そして綴喜郡が11.3%と、山城国の平均値を示している。山城国内でも、南高北低の傾向が見られ、北山城(宇治郡以北)の諸郡は乙訓郡を別にすれば、いずれも数パーセント台にとどまっており(愛宕郡0.9%、葛野郡2.3%、紀伊郡8.2%、宇治郡2.9%)、京都府全体で見ると、埴輪を出土する古墳遺跡は、総数256か所の半数近く(114か所)が南山城(久世郡以南)に集中しているとも言える。

丹後・丹波では、古墳の少ない船井郡(12か所)の2.7%と、ほぼ現在の綾部市にあたる何鹿郡(15か所)の2.4%という数字が目立つと共に、パーセンテージは低いが、先に触れた与謝郡の17か所と竹野郡の14か所という埴輪出土地点数は注意すべきであろう。

以上、各国・各郡の古墳総数に対する埴輪樹立古墳の比率を中心に報告したが、丹後及び丹波の古墳の多さ(京都府全域の実に84%)は、これらの地域に広がる前期・中期前半の台状墓系の小形古墳と後期の群集墳の途方もない多さによるのであり、古墳らしい古墳の数をベースにすれば、丹後・丹波と山城の差も多少は縮まるであろう。問題はむしろ、両地域の社会構造の違いなのかもしれない。山城地域で増えつつある小型削平古墳が、丹後地域の尾根上に数珠つなぎの高まりとして残る台状墓系の古墳(俗にぎぶとん古墳、だんだん古墳)に相当するとも見られるが、後者が踏査をすればある程度は認識出来るのに対して、前者は発掘調査してはじめて判る古墳であり、今後も増え続けることが予測される。両者の差には、弥生時代の台状墓と方形周溝墓の伝統の違いが尾を引いているのかも知れない。この弥生時代から古墳時代前・中期に及ぶ二つの墓制の分布圏の地理的境界は、ほ



第1図 京都府の形象埴輪分布図

ぼ由良川中流域にあり、加佐郡を除く丹後と丹波の天田郡が台状墓系の地域で、丹後の加佐郡と何鹿郡以南が周溝墓系の地域と予測しておきたい。

京都府内の256か所の埴輪出土地の時期的変化については、70か所以上が時期不明で今後詳細に個々の埴輪を検討して行かねばならないが、報告されている資料によれば、第Ⅰ期(4世紀)4か所、第Ⅱ期(4世紀後半)31か所、第Ⅲ期(5世紀前半)30か所、第Ⅳ期(5世紀中葉～後半)59か所、第Ⅴ期(6世紀)55か所となる。全期間を通じて、南山城が優位にあり、北山城がこれに次ぐ。第Ⅱ～Ⅲ期には、丹後が北山城に匹敵するが、Ⅳ期以降は

第1表 丹後・丹波の形象埴輪出土地一覧表

【竹野郡】¹ 丹後町				
1	産土山古墳	円墳(径 56m)	円筒Ⅲ	家
2	神明山古墳	前方後円墳(長190m)	円筒Ⅲ	家/蓋/盾
【竹野郡】² 弥栄町				
3	ニゴレ古墳	円墳(径 30m)	円筒Ⅲ/朝顔	切妻家/寄棟家/甲冑/舟/椅子
【与謝郡】加悦町				
4	蛭子山古墳	前方後円墳(長145m)	円筒Ⅱ/朝顔	家/蓋/短甲
5	作り山1号墳	帆立貝形(長 36m)	円筒Ⅱ/朝顔	切妻家/鶏
6	嶋谷東1号墳	円墳(径 48m)	円筒Ⅲ/朝顔	家/蓋/盾/鞆/短甲/草摺/冑/鞆
7	後野円山1号墳	造出付円墳(径 31m)	円筒Ⅳ/朝顔	家/水鳥/小鳥
8	白米山古墳	前方後円墳(長 92m)	円筒Ⅱ/	不明器材
9	かこの山古墳	円墳(径 ?)	円筒Ⅲ/	家/短甲
【天田郡】福知山市				
10	妙見1号墳	方墳(辺 43m)	円筒Ⅳ/	短甲?/草摺
11	稲葉山10号墳	前方後円墳(長 38m)	円筒Ⅴ/朝顔	家/馬/巫女/弹琴/武人/鷹匠
12	中坂1号墳	方墳(辺 9m)	(Ⅳ)	入母屋家/切妻家/盾
【何鹿郡】綾部市				
13	私立円山古墳	造出付円墳(径 71m)	円筒Ⅳ/朝顔	家/入母屋家/切妻家/寄棟家/蓋/盾/短甲/草摺/鳥
14	以久田野17号墳	円墳(径 22m)	(Ⅴ)	馬/人物
15	菖蒲塚古墳	造出付方墳(辺 32m)	円筒Ⅲ/朝顔	蓋/草摺
16	聖塚古墳	造出付方墳(辺 54m)	円筒Ⅲ/朝顔	蓋/短甲/草摺?
17	野崎2号墳	円墳(径 9m)	(Ⅴ)	家
18	野崎4号墳	円墳(径 8m)	(Ⅴ)	寄棟家
19	上杉1号墳	前方後円墳(長 50m)	円筒Ⅴ/	男子/女子
【船井郡】¹ 丹波町				
20	塩谷5号墳	円墳(径 16m)	円筒Ⅴ/	巫女
【船井郡】² 園部町				
21	垣内古墳	前方後円墳(長 82m)	円筒Ⅱ/朝顔	家/不明
22	小桜1号墳	方墳(辺 ?)	円筒Ⅴ/朝顔	蓋
23	園部城下層	方墳(辺 ?)	円筒Ⅴ?/	蓋
【船井郡】³ 八木町				
24	塚本古墳	方墳(辺 28m)	円筒Ⅳ/	盾
【桑田郡】亀岡市				
25	池尻22号墳	円墳(径 11m)	円筒Ⅲ/	器材
26	池尻23号墳	円墳(径 8m)	円筒Ⅳ/	家?
27	樹塚古墳	方墳(辺 40m)	円筒Ⅲ/	家/蓋/動物

北丹波が北山城に次ぐ位置を占め、丹後は最下位に転落する。この事情は京都府の古墳時代の他の側面ともおよそ一致しており、埴輪もこの時代の政治や社会を表す遺物のひとつと言えよう。

第2表 北山城の形象埴輪出土地一覧表

【紀伊郡】京都市伏見区			
28	黄金塚2号墳	前方後円墳(長120m)	円筒Ⅲ／朝顔 蓋
29	鳥羽遺跡	散布地	円筒Ⅳ／朝顔 切妻家／巫女
【葛野郡】京都市西京区			
30	穀塚古墳	前方後円墳(長 41m)	円筒Ⅳ／ 蓋／盾／動物／人物
31	山田桜谷2号墳	前方後円墳(長 50m)	円筒Ⅳ 形象
【乙訓郡】 ¹ 京都市西京区			
32	鏡山古墳	円 墳(径 30m)	円筒Ⅲ／ 短甲
【乙訓郡】 ² 向日市			
33	物集女車塚古墳	前方後円墳(長 45m)	円筒Ⅴ／朝顔 蓋／盾／大刀?／人物?
34	南条3号墳	円 墳(径 24m)	円筒Ⅳ／ 家
35	寺戸大塚古墳	前方後円墳(長 98m)	円筒Ⅰ／朝顔 家
36	乾垣内遺跡	円筒棺	円筒Ⅱ／ 盾
37	中ノ段古墳	? (?)	円筒Ⅴ／朝顔 切妻家
38	大極殿古墳	? (?)	円筒Ⅳ／朝顔 盾
39	南小路古墳		円筒Ⅴ／朝顔 蓋／盾
【乙訓郡】 ³ 長岡京市			
40	カラネガ岳2号墳	造出付円墳(径 35m)	円筒Ⅲ／朝顔 切妻家
41	南原東2号墳周辺	埴輪棺	／朝顔 盾
42	今里車塚古墳	前方後円墳(長 74m)	円筒Ⅲ／朝顔 家／蓋
43	舞塚1号墳	帆立貝形(長 39m)	円筒Ⅴ／朝顔 人物
44	宇津久志2号墳	方 墳(辺 7m)	(Ⅳ?) 切妻家
45	塚本古墳	前方後円墳(長 30m)	円筒Ⅴ／朝顔 入母屋家／蓋／盾／太刀／犬?
46	恵解山古墳	前方後円墳(長120m)	円筒Ⅲ／朝顔 家／蓋
47	南栗ヶ塚古墳	方 墳(辺 17m)	円筒Ⅳ／朝顔 家
【乙訓郡】 ⁴ 大山崎町			
48	鳥居前古墳	前方後円墳(長 60m)	円筒Ⅱ／朝顔 家／蓋
【宇治郡】宇治市北部			
49	二子塚古墳	前方後円墳(長105m)	円筒Ⅴ／ 人物
50	瓦塚古墳	円 墳(径 30m)	円筒Ⅳ／朝顔 家
51	二子山1号墳	円 墳(径 30m)	円筒Ⅲ／ 家／盾／鞆
52	二子山2号墳	方 墳(辺 36m)	円筒Ⅳ／ 蓋

3 京都府における形象埴輪の分布

5年前、橿原考古学研究所で行われた、形象埴輪の出土状況をテーマとした第17回埋蔵文化財研究会の資料として、京都府でも形象埴輪の出土地名表が作成された。当時は、京都府教育委員会編の遺跡地図の改訂版も完成していなかったし、また、埴輪に対する関心もさほど高くなかったせいか、僅かに27の古墳がリスト・アップされているに過ぎない。その後、京都府でも形象埴輪の出土が相次ぎ、また、ほぼ完全に復原できた資料も増えてきている。筆者自身、調査担当者として家形埴輪の出土とその復原に立ち会ったこともあ

第3表 南山城の形象埴輪出土地一覧表(1)

【久世郡】 ¹ 宇治市南部				
53	庵寺山古墳	円墳(径 56m)	円筒Ⅱ/朝顔	入母屋家/寄棟家/切妻家/蓋/盾 /靴/草摺
54	坊主山1号墳	前方後円墳(長 45m)	円筒Ⅴ/	家/動物/人物
55	金比羅山古墳	円墳(径 40m)	円筒Ⅲ/	盾/靴
56	大竹古墳	上円下方墳(辺 45m)	円筒Ⅳ/	形象
【久世郡】 ² 城陽市				
57	上大谷9号墳	方墳(辺 16m)	円筒Ⅳ/朝顔	家
58	下大谷円筒棺	方墳(辺 18m)	円筒Ⅲ/	蓋
59	青塚古墳	前方後円墳(長 49m)	円筒Ⅳ/朝顔	家/蓋/靴
60	芭蕉塚古墳	前方後円墳(長110m)	円筒Ⅳ/壺形	切妻家/蓋/靴/不明
61	梶塚古墳	方墳(辺 50m)	円筒Ⅳ/朝顔	家/盾/靴/草摺/馬/合子
62	車塚古墳	前方後円墳(長183m)	円筒Ⅲ/朝顔	家/蓋/盾/靴/馬
63	丸塚古墳	円墳(径 66m)	円筒Ⅲ/	入母屋家/家/蓋/短甲/草摺
64	赤塚古墳	円墳(径 23m)	円筒Ⅳ/	家/蓋/盾/甲冑/鶏/馬/武人
65	山道古墳	方墳(辺 35m)	円筒Ⅲ/朝顔	甲冑
66	芝ヶ原9号墳	円墳(径 25m)	円筒Ⅳ/朝顔	家/蓋/盾/太刀
67	芝ヶ原10号墳	円墳(径 33m)	円筒Ⅲ/朝顔	切妻家/蓋/盾/馬?
68	芝ヶ原11号墳	円墳(径 56m)	円筒Ⅲ/朝顔	家/蓋/盾
69	芝ヶ原周溝墓		円筒	切妻家
70	宮の平1号墳	方墳(辺 25m)	円筒Ⅳ/朝顔	盾/靴/草摺/鶏
71	宮の平2号墳	方墳(辺 29m)	円筒Ⅳ/	家/盾/太刀/鶏
72	宮の平4号墳	方墳(辺 16m)	円筒Ⅳ/朝顔	家
73	冑山1号墳	前方後円墳(長 25m)	円筒Ⅴ/	寄棟家/蓋/靴/鶏/動物/人物
【綴喜郡】 ¹ 八幡市				
74	茶臼山古墳	前方後方墳(長 50m)	円筒Ⅱ/	形象
【綴喜郡】 ² 田辺町				
75	大住南塚古墳	前方後円墳(長 71m)	円筒Ⅱ/朝顔	家
76	郷土塚2号墳	円墳(径 30m)	円筒Ⅳ/	家/水鳥
77	堀切7号墳	円墳(径 15m)	円筒Ⅴ/	盾/靴/馬/人物(男/女/子供)
78	興戸2号墳	円墳(径 28m)	円筒Ⅱ/	入母屋家
【綴喜郡】 ³ 井手町				
79	北大塚古墳	円墳(径 ?)	円筒Ⅴ/	靴/人物
80	南大塚古墳	円墳(径 ?)	円筒 /	蓋
81	鳥休遺跡	散布地	円筒 /朝顔	家

第4表 南山城の形象埴輪出土地一覧表(2)

【相楽郡】 ¹ 山城町				
82	山際1号墳	円墳(径24m)	円筒Ⅴ	盾
83	不動1号墳	円墳(?)	(Ⅴ)	家
84	平尾城山古墳	前方後円墳(長110m)	円筒Ⅰ	朝顔 家/蓋/鶏/合子
85	稲荷山古墳	円墳(径30m)	円筒Ⅰ	家
【相楽郡】 ² 木津町				
86	吐師七ツ塚3号墳	方墳(辺31m)	円筒Ⅲ	家/盾/鞆/短甲
87	吐師七ツ塚4号墳	前方後円墳(長42m)	円筒Ⅳ	器材
88	内田山A1号墳	円墳?(径?)	円筒Ⅳ	朝顔 蓋/動物
89	内田山A2号墳	方墳(辺12m)	円筒Ⅲ	朝顔 切妻家/罍形
90	内田山A3号墳	方墳(辺?)	円筒Ⅲ	朝顔 入母屋家
91	音乗谷古墳	円墳(径25m)	円筒Ⅴ	家/翳/盾/鞆/馬/猪/人物
92	瓦谷古墳	円墳(径34m)	円筒Ⅱ	家/蓋/盾/壺形
93	幣羅坂古墳	円墳(径18m)	円筒Ⅲ	甲冑
94	上人ヶ平1号墳	円墳(径17m)	円筒Ⅴ	朝顔 壺形/形象
95	上人ヶ平5号墳	造出付円墳(径25m)	円筒Ⅳ	朝顔 家/蓋/盾/鞆/甲冑/鶏/水鳥/馬/人物
96	上人ヶ平6号墳	方墳(辺11m)	円筒Ⅴ	馬
97	上人ヶ平7号墳	方墳(辺10m)	円筒Ⅳ	朝顔 不明
98	上人ヶ平8号墳	方墳(辺13m)	円筒Ⅳ	朝顔 鞆/鶏/不明
99	上人ヶ平9号墳	方墳(辺7m)	円筒Ⅳ	朝顔 家/蓋
100	上人ヶ平14号墳	方墳(辺7m)	円筒Ⅳ	朝顔 蓋
101	上人ヶ平15号墳	方墳(辺11m)	円筒Ⅴ	朝顔 蓋
102	上人ヶ平16号墳	方墳(辺6m)	円筒Ⅳ	朝顔 家/蓋
103	上人ヶ平17号墳	方墳(辺10m)	円筒Ⅳ	馬
104	上人ヶ平1号窯	埴輪窯	円筒Ⅴ	切妻家
【相楽郡】 ³ 和束町				
105	大杉古墳	古墳(?)	(Ⅴ)	人物

って、上記の地名表の不備を感じていた。そこで、京都府の形象埴輪の出土状況を新たにまとめてみたのが第1表から第4表である。現段階で知り得た京都府の形象埴輪出土古墳遺跡は、105か所を数える。この数字は、畿内の一画を占める山城国を擁する京都府としては、奈良県の182か所、大阪府の154か所、兵庫県の49か所(いずれも上記の5年前の資料による)と比較して、感覚的にも納得出来るものであろう。

表の第1項は通し番号で、これは第1図の分布図、第2図の実測図番号、文献番号と共通する。次に、古墳遺跡名、墳形の種類と括弧内に古墳の規模を記した。時期は、基本的に川西宏幸氏の円筒埴輪による編年によった。円筒埴輪が出土していない場合は、他の共伴する遺物等による時期を括弧内に示した。朝顔形

第5表 形象埴輪種類別集計表

種類	地域				計 (%)
	丹後	丹波	北山城	南山城	
家形	8	8	13	31	60 (57.1)
罍形	—	—	—	1	1 (1.0)
蓋形	3	6	9	21	39 (37.1)
翳形	—	—	—	1	1 (1.0)
盾形	2	3	8	16	29 (27.6)
鞆形	1	—	1	14	16 (15.2)
甲冑形	4	4	1	8	17 (16.2)
鞆形	1	—	—	—	1 (1.0)
太刀形	—	—	2	2	4 (3.8)
椅子形	1	—	—	—	1 (1.0)
舟形	1	—	—	—	1 (1.0)
鶏形	1	—	—	7	8 (7.6)
水鳥・小鳥	1	1	—	2	4 (3.8)
馬・動物	—	3	2	12	17 (16.2)
人物	—	4	5	8	17 (16.2)
出土地総数	9	18	25	53	105 (100.0)

時期

入母屋造り

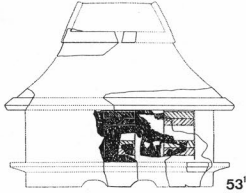
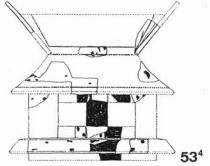
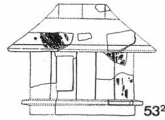
寄棟造り

京都府の家形埴輪

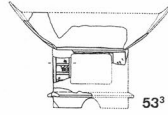
(縮尺：24分の1)

0 50 100cm

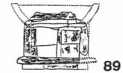
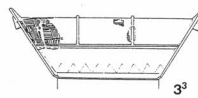
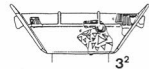
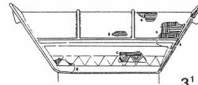
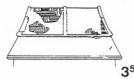
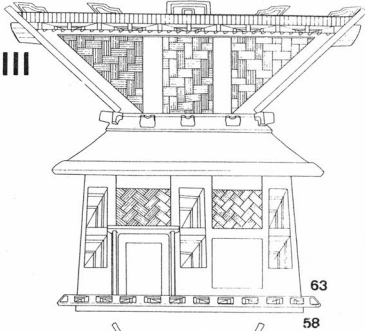
II



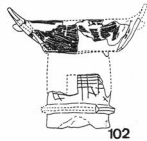
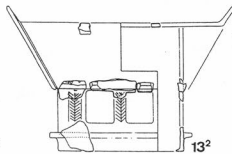
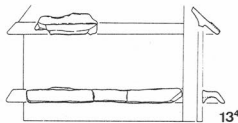
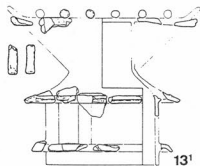
切妻造り



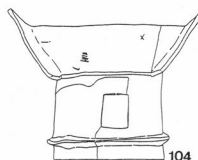
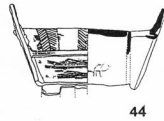
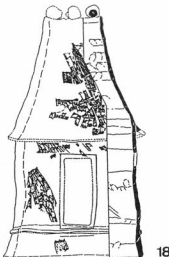
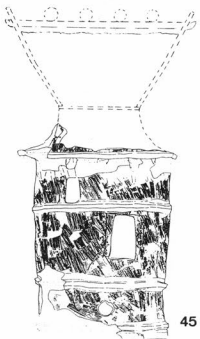
III



IV



V



第2図 京都府出土家形埴輪

埴輪の存否については、さほど正確なものではなく、空欄になっていても朝顔形を有する古墳は少なくないと思われる。最後の欄は報告されている形象埴輪の種類を列挙したものである。個体数については示していない。

105か所の古墳／遺跡は、北から南へと配列し、旧国郡に分けた後、現在の行政区別に細分した。京都府の形象埴輪の分布は、前項で述べた南高北低という埴輪の分布にはほぼ一致しており、改めて繰り返すまでもないであろう。

表から読み取れることではあるが、形象埴輪の種類別の分布は、第5表の通りである。これを見ると、京都府でも奈良県や大阪府と同様に、家形・蓋形・盾形の基本型3種が最も多い。とりわけ家形埴輪は、形象埴輪出土地の57%にあたる60か所で出土している。個体数については、破片での出土が殆どであるため明確ではないが、報告書等によれば京都府で少なくとも72個体が出土しているようである。1古墳で複数出土しているのは、(3)ニゴレ古墳の6点、(13)私市円山古墳の4点、(53)庵寺山古墳の5点である。第2図に残りの良い25点を集成したが、古墳時代前期から後期まで、入母屋造り・寄棟造り・切妻造りの各種の家形埴輪がほぼ満遍なく揃って来たのがここ数年の京都府での大きな成果である。

(こやま・まさと＝当センター)

京都府の形象埴輪文献一覧

京都府の形象埴輪に触れた報告書・概報・概説の類いは膨大な数に上り、本稿の限られた紙面では到底網羅しえない。従って、大半は『京都府遺跡地図 第2版』、全5分冊(京都府教育委員会、1985～1989)の文献目録に譲り、ここでは、特に重要、あるいは最近の報告書類、及び第2図に集成した家形埴輪関係の文献を挙げるにとどめたい(数字は、本稿での古墳／遺跡の通し番号)。

- 3 西谷真治・置田雅昭『ニゴレ古墳』(弥栄町文化財調査報告第5集)弥栄町教育委員会 1988
- 6 和田晴吾編『鴨谷東1号墳第2次発掘調査概報』(立命館大学文学部学芸員課程研究報告第2冊)立命館大学文学部 1989
- 10～19 Cf. 鍋田勇「中丹地域における埴輪祭祀の展開」(史想第22号)京都教育大学考古学研究会 1989.11
- 12 黒田恭正・杉本宏「中坂古墳群・他」(『丹波の古墳I』)山城考古学研究会 1983
- 13 鍋田勇ほか「私市円山古墳」(『京都府遺跡調査概報』第36冊)財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 1989
- 17・18 小山雅人「野崎古墳群の埴輪と土器と土製品」(『京都府埋蔵文化財情報』第25号)財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 1987
- 20 伊野近富「塩谷5号墳出土の人物埴輪」(『京都府埋蔵文化財情報』第35号)財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 1990
- 21 森浩一・三浦純夫ほか『園部垣内古墳』(同志社大学文学部考古学調査報告第6冊)同志社大学文学部文化学科 1990

- 29 前田義明・鈴木久男「第121次調査」(『鳥羽離宮跡発掘調査概報』昭和61年度)京都市文化観光局・財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1987
- 33 山中章・秋山浩三ほか『物集女車塚』(向日市埋蔵文化財調査報告書第23集)向日市教育委員会 1988
- 37 山中章ほか「長岡宮(京)跡立会調査概要」(『向日市埋蔵文化財調査報告書』第6集)向日市教育委員会 1980
- 44 白川成明「右京第321次調査略報」(『長岡京市埋蔵文化財センター年報』昭和63年度)財団法人長岡京市埋蔵文化財センター 1990
- 45 竹井治雄「長岡京跡右京第266次発掘調査概要」(『京都府遺跡調査概報』第27冊)財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 1988
- 48 福永伸哉・松木武彦・杉原和雄ほか『鳥居前古墳—総括編—』(大阪大学文学部考古学研究报告第1冊)大阪大学文学部考古学研究室 1990
- 53 杉本宏「庵寺山古墳平成元年度発掘調査概要」(『宇治市埋蔵文化財発掘調査概報』第15集)宇治市教育委員会 1990
- 63 近藤義行「丸塚古墳出土の家形埴輪」(『城陽市埋蔵文化財調査報告書』第19集)城陽市教育委員会 1989
- 67 近藤義行「芝ヶ原10号・11号墳発掘調査概報」(『城陽市埋蔵文化財調査報告書』第15集)城陽市教育委員会 1986
- 73 青山1号墳の形象埴輪の実測図は公になっていない。『よみがえる古墳文化』(宇治市歴史資料館 1986)37頁に写真が掲載されている。
- 77 林正・吉村正親・西川滋「堀切古墳群調査報告書」(『田辺町埋蔵文化財調査報告書』第11集)田辺町教育委員会 1989
- 78 梅原末治「田辺町興戸の古墳」(『京都府文化財調査報告』第21冊)京都府教育委員会 1955
- 84 近藤喬一編『京都府平尾城山古墳』(古代学研究所研究報告第1輯)財団法人古代学協会 1990
- 89 大槻真純「内田山古墳発掘調査概要」(『京都府遺跡調査概報』第4冊)財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 1982
- 90 松井忠春・戸原和人・小山雅人「燈籠寺遺跡第2次発掘調査概要」(『京都府遺跡調査概報』第16冊)財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 1985
- 94 戸原和人ほか「木津地区所在遺跡昭和59年度発掘調査概要」(『京都府遺跡調査概報』第17冊)財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 1985
- 95~99 小池寛ほか「木津地区所在遺跡昭和62年度発掘調査概要」(『京都府遺跡調査概報』第35冊)財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 1989
- 93・95・98・100~104 石井清司・伊賀高弘「木津地区所在遺跡昭和63年度発掘調査概要」(『京都府遺跡調査概報』第35冊)財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 1989

財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センターの10周年記念特別展には、未公開資料も含めて多くの形象埴輪が出展された。その図録『京都・古代との出会い』(同センター1990)に写真が掲載された遺物を、古墳/遺跡番号と埴輪の種類で以下に示す。4(短甲)・6(靱・水鳥)・18(家)・20(巫女)・29(巫女)・43(男子)・45(家・盾)・53(家4点)・63(家)・64(武人2点)・73(男子)・77(男子)・90(家)・100(蓋)・103(馬)・104(家)。